

2000年12月13日

## 東京外国為替市場委員会第39回会合議事録

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 開催日時  | 2000年11月20日 13:00～15:00 |
| 場 所   | 日本銀行本店新館9階大会議室          |
| 議 長   | 森岡 俊行(東京三菱銀行)           |
| 副議長   | 大倉 孝 (パークレイズ銀行)         |
| 副議長   | 花井 健 (日本興業銀行)           |
| 書 記   | 西川 広親(日本銀行)             |
| 参加委員数 | 16名(別紙1)                |

### 1. 委員の辞任

森岡議長(東京三菱銀行)より、転籍に伴い今回をもって議長並びに委員を辞任する意思が表明されました。併せて同議長から、次回本委員会で新委員の選挙及び議長の選出を行うこととし、当面は花井副議長(日本興業銀行)に議長代行を依頼してはどうか、との提案があり、了承されました。

続いて、森岡議長より、「本日欠席している松田委員(オーストラリア・コモンウェルス銀行)から、『委員を辞任するが、次回会合まではオブザーバーとして本委員会に参加したい』との意志が表明された」との報告がありました。

これを受けて、別紙2のとおり新委員を公募することとなりました(ホームページにも掲載)。

### 2. 委員会運営の見直し(運営小委員会)

#### (1) 合併・統合および所属機関変更時の取扱い、委員会の構成

運営小委員会委員長の加藤委員(野村信託銀行)より、問題の所在について、以下の通り説明がありました。

#### イ、合併・統合とメンバーシップ

従来は、1金融機関からの委員は1名というのが、基本的な了解事項であった。しかし、現在委員所属機関同士の合併・統合計画が進んでいるため、このままでは1つの金融機関ないし金融グループに複数の委員が所属することになるが、これをどうするか。

#### ロ、委員の所属機関変更

従来は、個人資格による参加であることを理由に、所属機関に変更があっても、本人が希望すれば引き続き委員として活動することを認めてきた。しかし、今般の委員会改革では、第一に、委員の要件として所属機関による支援を重視していること、第二に、委員選任手続きをより透明性の高いものにしようとしていることから、以下のケースについて、それぞれ取り扱いを検討する

必要があるのではないか。

- ① 転籍(同一の金融機関内ないし金融グループ内での異動)、移籍(他の金融機関ないし金融グループへの転職)により、所属機関が変わった場合。
- ② 辞職、解雇等により、委員が組織に所属しなくなった場合。

#### ハ、委員会構成上のバランス

委員所属機関の合併・統合が進む結果、邦銀を中心に委員数が減少する可能性が高いが、邦銀・外銀別、あるいは業態別に見た委員数のバランスを保つために、何らかの措置を講じる必要はないか。

#### ニ、小委員会委員の扱い

当委員会の活動を強化するためには、今後小委員会の拡充が必須と思われるため、小委員会委員の位置付けや扱いについても明確なルールを作るべきではないか。

イ、に関し、先ず複数の委員所属機関が一つの法人になる場合には、1金融機関1委員の原則に基づいて、当該金融機関からの委員は1名とする(他の委員は辞任)との考えで一致しました。次に、委員所属機関が同一持株会社傘下の子会社として並存する場合については、一部の委員から、「所属機関の業態が異なる等の特別な事情があれば、一つの金融グループから複数の委員が出ることを認めても良いのではないか」、「一律に考えるのではなく、個々のケースに応じて議論してはどうか」との意見が出ましたが、多数の委員は、「統合形態によって区別することはバランスを欠くため、原則として1金融グループにつき委員1名とすべき」との意見でした。なお、金融グループの場合、どの時点で統合が完了したと見るのかは、今後の検討課題となりました。

ロ、のうち、所属機関からの組織的な支援を完全に喪失する②の場合については、委員は辞任しなければならないとの考えで一致しました。他方、①に関しては、「新所属機関から引き続き推薦・支援を得られるのであれば、委員を続けることを認めても良いのではないか」との意見も聞かれたものの、最終的には「委員が選出される際、現所属機関の支援体制や業態なども判断材料に含まれている以上、所属機関の変化は重要な要件の変更であるため、離籍した段階でいったん辞任するのが筋。再度委員となることを希望する場合には、通常の選任手続きに則り、新所属機関の推薦状を取り付けて立候補すべきである」との考えで一致しました。

また、上記イ、のケースで委員を辞任しなければならないケースにおいて、当該委員本人が希望し、かつ委員会が認める場合には、オブザーバーとして残ることができることとなりました。

ハ、については、「邦銀所属委員の減少に併せて外銀所属委員の数も減らすべき」、「地銀や系統金融機関など、他業態の委員を加えてはどうか」、「外銀所属委員数が邦銀所属委員数を上回っても不自然ではない」等の意見が聞かれました。結局、バランスについて考慮することは必要であるが、どのような委員構成になればバランスが良いと言えるのかは検討を要する、との考えで一致しました。

ニ、については、小委員会委員は、小委員長の推薦を受けて本委員会が承認、任命することと

なりました。

今後、運営小委員会では、残された課題について検討するとともに、委員の資格、選任方法等に関する細則案を策定することとなりました。

## (2)その他

小林オブザーバー(日本銀行)より、前回の会合で選出された新委員5名に対し、日本銀行の増淵理事から、今後の活躍に期待する旨のレターが発出されたことが紹介されました。続けて、同オブザーバーより、当委員会としても新委員および上司に対し、委嘱状を出してはどうかとの提案があり、承認されました。なお、小委員会委員およびその上司に対しても、委嘱状を交付することになりました。

このほか、海外外為市場委員会との交流強化についても、今後運営委員会で検討することとなりました。

## 3. フォレックス・セミナー開催準備の件(教育広報小委員会)

教育・広報小委員長の渡辺委員(第一勧業銀行)より、当委員会主催セミナーの準備状況について、以下の通り報告がありました。

- ① 講演内容：「金融取引におけるインターネットの活用」  
講師；大崎 貞和氏(野村総合研究所 資本市場研究室長)  
「市場構造の変化について」(仮)  
講師；西川 広親委員(日本銀行 金融市場局為替課長)
- ② 会場： 日本興業銀行特別会議室
- ③ 規模： 50名(先着順)
- ④ 参加費： 5000円

引き続き、教育・広報小委員会を中心に準備を進めること、同小委員会以外の委員も準備作業に協力すること、を合意しました。また、渡辺委員が日本フォレックスクラブの定例会合に出席し、セミナーの概要について説明し、協賛について検討を依頼することになりました。

## 4. Model Code に関する検討作業

Model Code ワーキンググループ委員長の中島委員(スタンダード・チャータード銀行)より、11月15日に第1回会合を開催し、Model Code と東京 Code of Conduct (Orange Book)の相違点を洗い出す作業を開始した旨の報告がありました。

## 5. RTGS の件

西川書記(日本銀行)から、2001年1月4日に導入される「RTGS」(Real Time Gross Settlement:即時グロス決済)について、その概要および第4回目の模擬テストでも特に問題はな

かった旨の説明がありました。この関連で、ある委員からは、「外為取引にかかる円資金決済は、RTGS 導入後も14:30決済のままであるにも関わらず、外為決済資金を決済当日の朝9:00に入金するよう要求する顧客がいる」との話がありました。

## 6. その他

### (1)公式な市場取引開始時刻

酒匂委員(UBS 銀行)より、シンガポール外為市場委員会から以下のような照会が来ているとの報告がありました。

- ① 現在、公式の市場取引開始時刻は、月曜日のシドニー時間午前5時とされている。しかし、実際には同時間帯の取引はあまり活発ではないため、同時刻にディーラーを出勤させることは非生産的である。
- ② ついては、公式の市場取引開始時刻を、月曜日のシドニー時間午前5時から同7時に後ずれさせたいので、本件に関する東京外為市場委員会の見解を伺いたい。

これに関連して、小林オブザーバーから、ニューヨーク外為委員会・シンガポール外為市場委員会合同会合では、本件に関し、シンガポール外為市場委員会がアジア地区外為市場委員会の意向を調査することになった模様である、との報告がありました。

委員からは、「早朝のモニタリング負担が軽減されるため、歓迎できる」等の意見が聞かれましたが、正式な回答については、顧客との調整を要する可能性があるため、各所属機関に持ち帰って検討することになりました。

### (2)CFD インデックス・レートに関するテスト進捗状況

安田オブザーバー(東京三菱)より、ロンドンにおける東京三菱のCFDテスト参加状況について、以下の通り報告がありました。

- ① 前回報告した時からあまり進展はなく、引き続き6通貨のレートを、10:50～11:00までの間に、1回入力すれば良い、という状況である。
- ② 当行は、11月入り後は毎日入力しているが、まだ入力していないパネル行もいるようである。
- ③ BBA、ロイターからのテストの全体状況に関するフィードバックはなく、今後どうなるのかは不明である。

以 上

(追記)

後日(12月15日)、加藤委員より、転籍に伴い委員を辞任する意志が表明されました。

(別紙1)

東京外国為替市場委員会委員名簿(11月20日現在)

<委員>

|                         |        |                           |
|-------------------------|--------|---------------------------|
| 議長                      | ○森岡 俊行 | (東京三菱銀行)                  |
| 副議長                     | ○花井 健  | (日本興業銀行)                  |
| 副議長                     | ○大倉 孝  | (パークレイズ銀行)                |
| 書記                      | ○西川 広親 | (日本銀行)                    |
| 運営小委員長                  | ○加藤 博光 | (野村信託銀行)                  |
| 教育・広報小委員長               | ○渡辺 秀典 | (第一勧業銀行)                  |
| 市場取引に関する小委員長            | ○酒匂 隆雄 | (UBS 銀行)                  |
| リスク管理小委員長               | ○高松 力  | (チェース・マンハッタン銀行)           |
| CFD に関する小委員長            | ○菅田 克彦 | (富士銀行)                    |
| Model Code ワーキンググループ委員長 | ○中島 尚彦 | (スタンダードチャーター銀行)           |
|                         | 野手 弘一  | (住友銀行)                    |
|                         | ○石川 栄一 | (イービーエス・ディーリング・リソース・ジャパン) |
|                         | ○神田 紀昭 | (ロイター・ジャパン)               |
|                         | ○伊藤 一雄 | (トウキョウフォレックス上田ハーロー)       |
|                         | ○今井 雅人 | (三和銀行)                    |
|                         | ○金上 孝  | (三菱信託銀行)                  |
|                         | 小林 和成  | (ステート・ストリート銀行)            |
|                         | ○文野 政和 | (さくら銀行)                   |

<オブザーバー>

|          |        |                       |
|----------|--------|-----------------------|
|          | ○野口 嘉彦 | (マネー・フローカース・アソシエーション) |
| 法律問題小委員長 | ○小林 一夫 | (日本銀行)                |
|          | ○安田 正道 | (東京三菱銀行)              |
|          | 松田 哲   | (オーストラリア・コモンウェルス銀行)   |

(注) 敬称略(順不同)。○は今回出席。